

国際交流基金助成事業報告書

薬学部2年次生 S.N

1. はじめに

私は2025年3月2日から3月23日までの3週間、フィリピン、セブ島にて語学短期留学を経験しました。滞在中は語学学校内の寮でルームメイトである台湾人2名と同室で共同生活を送りながら英語学習に励みました。午前8時から午後6時まで授業が11コマ詰められており英語の文法、読解から会話、イディオム、スラングまで幅広く学びました。週末にはジンベイザメ鑑賞ツアーや、シュノーケルツアーに参加し、勉強と観光の両方を楽しむことができました。

2. 語学学校にて

私が通った Cebu International Academy (CIA) は、セブ本島ではなくマクタン島に位置する学校で、発展途上のエリアにありながらも設備が整っていました。寮は3人部屋で、広さにもゆとりがあり、快適に生活できる環境でした。食事も月曜から土曜まで一日三食、日曜は朝夕2食提供されるため、外食の機会が少なく、生活費を節約することができました。

授業はマンツーマン形式が多く、生徒一人一人のレベルや希望に応じて進められました。グループクラスでは、先生が積極的に生徒に発言を促し、英語でのプレゼンテーションや討論のスキルも磨くことができました。

入学前には日本でスピーキングテストを受け、現地初日リーディング、リスニング、ライティングの試験を受験しました。その結果をもとに授業が振り分けられました。基本的に文法は中学英語、高校英語で習ったものの復習でしたが、文法の授業はすべて英語での説明のため、最初は品詞や用法の英語表現を理解するのに苦労しました。しかし、二週間目には慣れ、徐々に理解できるようになりました。

グループレッスンでは当初、先生に指名されることを少し怖く思っていたのですが、クラスメートから「分からないことを恥ずかしいと思わなくていい、それを学びに来ているのだから」というアドバイスを受けたことでリラックスして授業に臨めるようになりました。

ルームメイトの台湾人とは、お互いを尊重しながら生活できました。例えば、誰かが寝ているときはお互い電気を暗くするなどの配慮をし、ルームキーがなくなるなどの緊急時にはスムーズに連絡をとりあって、問題を解決することができました。またルームメイトが勉強している姿を見ることで、自分も学習意欲を高めることができました。



ルームメイトと



カワサン滝



ジンベイザメと遊泳



バッチメイトと

3. アクティビティ

語学学習だけではなく、週末にはオプションツアーに参加し、フィリピンの自然も満喫しました。

私は今回オスロブのツアーとカワサン滝、アイランドホッピングツアーに参加しました。オスロブはセブ島本島の南端にあります。そのため学校からオスロブは片道4時間半ぐらい要しました。またジンベイザメは昼12時までの限定的な時間で観察することができるため、夜中の1時から出発しました。ジンベイザメツアーは30分ほどで終了しましたが、いつもは水族館でみているジンベイザメを至近距離で一緒に泳ぐことができるというなかなか日本ではできない貴重な体験ができました。

その後、カワサン滝という鍾乳洞が数キロにわたって続いているところを探検しました。日本の鍾乳洞とは違い、天井が落ちていてすべてが地上にむき出しになっているため日の光が当たり、安全に探索をすることができました。途中で5m、7m、10mの自然のジャンプ台から川に飛び降りるというスリルのある体験もすることができました。カワサン滝のアクティビティをすべて終えるころには4時間程度が経過していました。その途中でも台湾人と会話することによって英会話力を身につけるとともに、中国語と日本語の言語交換を行うことができました。その際に本学の一年次で学習した中国語の知識を生かして実践練習ができたことも大きな収穫でした。

アイランドホッピングツアーにおいてはオランゴ島というセブ島の真横にある島に向かって船を用いて移動していきました。島の手前で停まり、シュノーケリングを行いました。シュノーケリングではサンゴ礁からなる水の美しさや生態系の素晴らしさを体感しました。また言語交換の場でもあり、たくさんの外国人の方と言語交換をすることができました。

4. 薬学との関連

入校して、数日後に環境の変化と水質の変化からか食中毒になりました。語学学校内に看護師が常駐されており、さらに提携する病院の医師の往診日があり、受診をすることができました。フィリピンの薬は作用が強く飲んだ一時間後には効果が出ていました。その代わりに副作用も強く、めまいが強かったです。また授業では、学部が薬学部であることを伝えると薬学系の単語やフレーズ、実際の臨床で使えるイディオムなどを教えていただきました。さらにルームメイトから台湾の薬について眠気を催す薬かどうか尋ねられ、添付文書の情報をもとにアドバイスをすることができました。

5. 留学を終えて

今回の留学を通じて、英語力の向上だけでなく、異文化交流の大切さも学びました。特にマンツーマン授業やグループディスカッションを通じて、実践的な英語コミュニケーション能力を伸ばすことができました。また、ルームメイトとの共同生活やアクティビティでの言語交換を通じて、多様な文化に触れる貴重な機会となりました。

この経験を活かし、今後も英語学習を継続しながら異文化交流を深めるとともに、他言語にも挑戦してみたいと考えました。